

595
146

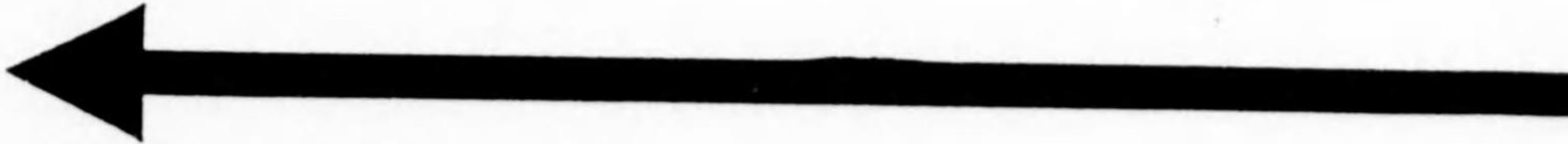
×
複写

259. 5-146
1200501349909

第 實業教育資料
九 商業學校の經營に就て
雅二



始



259
14

て就に營經の校學業商

長校學業商岡市立市阪大

二 雅 木 赤

料資育教業實

9

内 省 部 文

行 發 會 央 中 興 振 育 教 業 實 法 財
人 團

實業教育資料刊行の趣旨

實業教育資料は、一は實業に關する重要問題に付、斯界の權威に執筆を乞ひ、以て教育關係者をして國家的に又實業的に最緊急重要なる事項に付、正確なる知識を把握せしめ、學生々徒の教育指導に遺憾なからしむると共に、一は實業教育に關する斬新なる學說意見、顯著なる施設業績、外國事情等を紹介して、實業教育の改善進歩に資せんとするものである。

即ち實業教育の改善と新教材の供給との二を主たる目的として、編纂するものである。

商業學校の經營に就いて 要旨

商業の目的はその十全なる機能を發揚することによりて皇運を扶翼し奉るに在る。故に商業學校に於ける教育は生徒をして日本商業人としての國家的使命を自覺せしめ、此使命を達成するに十分なる心身知一如の能力を啓培し、國土的意氣を強健なる體軀に盛り、我國産業の進展、興亞大事業の完遂に貢獻するを得る人物を鍊成すべきである。從て商業學校教育は商業に魂と力とを與ふる教育でなくてはならぬ。即ち之を史實に徴し日本商業精神の特色を明かにすると同時に國勢の大觀による自覺を與へ、積極的責任感、進取の氣象、鞏固なる意思、協同團結の心力、科學的精神を涵養し、實踐力を養ふことが肝要であり、時局に鑑み教科課程中、特に工業的知能、原價計算、海外發展に關する知力の育成に留意する事が必要である。

志と力とを併せ養ふ爲には學校は全人教育を施す道場たらねばならぬ。教科目は單なる無機的な知識の羅列でなく、意識的にして體驗的な主張に基く有機的生命あるものたらしむべく、また説明注入に偏する教授態度を改めて生徒の主動創造をすゝめ、之を行動に訴ふる鍛鍊教育たるべきである。その爲めには内容の單純化、教材の精撰、環境の整備、考查法の改善等を閑却してはならぬ。又行事、見學、課題等に就ても即興的偶發的でなく、之を組織化して教育體系に織り込み、一定の計畫の下に實行すべく、更に就職指導、卒業生指導、實社會の指導にも力を致さなくてはならぬ。

これ等商業學校經營の適切なる運営は職員の商業教育者たるの自覺と修養と率先垂範にまつもの最も多きによる事を力説して大方の叱正を仰がんとしたものであるが、生來の淺才に、加ふるに述べんとするところがあまりに廣汎に互り、紙數に限りある爲め、項目の列記に終りて意を盡さざるもの多きは誠に汗顔の至りである。

目次

第一、商業教育の針路

- 商業魂(信念)を與ふる教育たらざるべからず
- 日本商業精神の特色に關する史的研究—國勢の大觀による自覺—積極的責任感—進取—意志の鍛鍊—協同—科學的精神—實踐力
- 商業力(能力)を與ふる教育たらざるべからず
- 體力—工業的知能—原價計算—海外發展—大陸進出—教練武
- 道

第二、教科

- 生命ある教材たるべし—學年に伴ふ合科と分科—教科目—所謂普通科と商業科

第三、商業道場として……………一八

生徒の主動―郷土が資料となる―具體的教育―行動的教育―實踐科―出席日數―鍛鍊の必要―單純化―劃一を排し特長を伸ばしむ―各科目の使命に即する教授―環境の整備―教室其他―考查に就て―行事の豫定―時局の認識及銃後奉仕―集團勤勞並農耕的戶外作業に就て―見學に就て―課題に就て―學級經營―就職指導―卒業生指導―實社會の指導への進出

第四、職員……………三六

第五、結論……………三八

商業學校の經營に就て

大阪市立市岡商業學校長

赤木 雅 一

第一 商業教育の針路

教育は皇國の道を修めしめ國家有爲の人材を鍊成するを以てその目的とする。而して商業教育は商業に従事するものに須要な教育をなすもので、商業なる機能を十全に發揚することに依つて皇運を扶翼し奉る青年を養成するのである。

凡そ國家有爲の人材を鍊成する爲めには其教育内容は特に時代の要求に適應し、眞に國家の要望に副ひ、國策の嚮ふところに従ひ、今日及び今後の時局が求むる眞人物を作り上げなくてはならぬ。今や時局は新東亞建設の重要な時機に進展し、八紘一宇の大精神の下、我が使命を達成するには特に商業人の一大覺醒と努力とを要するや論を俟たない。而かも商業經營は時局に即應して一大轉換期に直面してゐる。此重要な時期に於て中等商業學校教育も亦茲に一大刷新を行ひ、以て商業教

育報國の實績を擧げなくてはならぬ。然らば時代は如何なる商業人を求めてゐるか。一言にすれば信念と能力との兩者を兼ね備へたる人といふに歸着すべく、商業學校に於ては「魂の教育」と「力の教育」の兩者の融合せる教育を施さねばならぬと信ずる。即ち皇國の道に基づく徹底せる産業精神の下に忠勤を勵み、高き理想を抱き、科學的經營によりて能率を増進し、配給の倫理化を實現し、販路を世界に開拓して貿易の伸暢に努め、興亞大事業の完遂に貢獻し、國運の隆昌を期すべく、心力・學力並に體力に互りその實力を鍊成すべきである。

商業に魂（信念）を與ふる教育たらざるべからず

商業學校教育の重要な任務は、第一に商業に魂を入れることであり、信念と氣魄とを與へることである。然らば商業の魂とは何か。商業に依つて皇運を扶翼し奉り、天業を翼賛し奉る事である。誤れる營利第一の觀念を是正して正しき企業經營の根本精神に徹せしむることが必要である。旺盛なる商業活動、堅忍持久の大精神は此根本精神の自覺に導かれて始めて光を放つのである。中等程度商業學校生徒の年齢は、最も感激性に富み、陶冶性の豊かな而かも強烈なる實踐力に富む青年時代である。古來偉人傑士と呼べる、人々の全生涯が其青少年期に與へられた深い體驗と感銘とに支

配されてゐる場合が少くないのを思ふとき、此時期に於て高き理想と氣魄とを有せしめ、眞の商業人の任務を髓の底まで徹せしむることは中等商業學校の擔當する光榮ある責務であると信ずる。

商業學校の目的は單なる商人の養成でなく、日本商人の養成である。商業の經營は日本國民の盡す職分として、つとめとしてある。全科目修學の中心をこゝに置かなくてはならぬと同時に獨立したる一科目又は一研究項目を設けてその發奮を促す事も亦必要であつて、之が爲め次の二方面の研究は特に有効と思ふ。

其一は**日本商業精神の特色に關する史的研究**に基く信念の確立である。西洋の文化は個人主義を基調とし従つて功利主義であり、而も亦此基礎の上に發達し來つたのであるが、日本精神は和と誠とを尙び、我國の商業はむすびの精神によつて發生發達し來つたこと史實の明かに示すところで、諸外國と著しく其趣を異にする。加ふるに我等が祖先の果敢なる海外發展の事績は將に鵬志を抱いて新東南洋の天地に雄飛せんとする青年に對して力強き感激を與へるものと謂はねばならぬ。校内に適當の設備を施し、日本商業精神史の研究を行はしめ、先賢の遺績を仰ぎ眞に日本商業發達の特色に覺醒せしめ、皇國商人たるの矜持を有せしむる事は極めて必要と信ずる。之は決して史實その

もの知らしめんとするのではない。此室の存在それ自體と運営とが全校精神の啓培に資するところ多きを感じるが故である。

其二は國勢の大觀による自覺である。日本の産業人として躍起するには日本産業を大觀し世界の情勢に鑑み、統制經濟の眞意義に通徹せしめ、自己の職責の大なるを覺らしめねばならぬ。道に迷ふとは地圖上のどの地點に自分が居るかを知らぬ事である。全體の動きのどの地位に自分の仕事か作用するかを辨へないものは職業の途に迷つてゐるのである。職業はそれを通じて報國奉公する部門であるから、團體内に於ける自己の立場を明かにし、進路に明確具體の理想を確立せしめ、卒業後の就職も此信念貫徹の直路に沿ふて選ばしむべきで、此爲めに上級に日本産業論を課すると共に下級の地理科に一大雄飛を促し、興亞の見地に立つ新生命を吹き込むことが肝要である。

商業人としての徹底せる信念を把握するやう、己れの立場上止むを得ず負ふといふ責任ではなくて、自ら進んで求めて、喜んで負ふ積極的責任感を有するに至らしむべきである。例へば商事要項科に於て銀行、保險等各種事業を教授するに當りても、其事業が國家社會に有する機能より生ずる深き責任感を養ふ事を等閑に附してはならないし、又一生徒として、級長として、當番として、係

員として、實踐市場の一店主として、又家庭人としては子として、兄として、弟としての責任を必ず盡さしむる様指導し、賞罰も亦其責任を果したる態度に對する激勵、賞讃、又は無責任に對する追及が主流となつてゐる事が肝要である。

既に積極的の責任に奮起するや、日常の動作に新しき天地を開拓せんとする進取の意氣が漲つて來る。一生を通じて歩一歩進んで息まざる堅實なる歩みを続け、堅忍持久、百折不撓、逐次に新しき分野を開拓する鞏固な意志を錬成しなくてはならぬ。

責任感、開拓精神をして孤立的・排他的とならしめてはならぬ。商業報國の立脚地に於ては特に協同團結が大切である。本來日本人は和を以て立つ國民である。これが商業上では屢々相和し得ないとの事を聞くは何故か、一言で盡きる。國家の立場に立つ時は直ちに相和する事が出来るが、個人の立場に立つ時相和する事が出来ないのである。商業が從來營利中心に立脚せる爲めに不思議に商業のみが和する事が出来なかつたのである。換言すれば商業教育の不徹底が然らしめたのである。協同精神の涵養は統制經濟下に在りて一層痛切に其必要を感じしめる。此意味から作業、運動等を課するに當つても團體作業・團體競技が推奨さるべく、賞罰の對照を團體とする事も亦採擇す

べき場合が少くない。通學區域により生徒を數團の學友區に分ち教師指導の下に座談會の開催、合宿・勤勞奉仕等の修養をなさしむる事は、學校として行ふ行事と呼應して人格陶冶の上に資するところが多く、殊に隣保組織の精神に基き相互扶助により郷土生活を振興し、自治體の健全なる發展に寄與する美風を養ふことが出来ると思ふ。

従來の「商賣」が持つてゐた大きな缺陷は商業が計畫的でなく、又其經營を科學的地盤の上に置かなかつた事である。或は奔走馳驅、錙銖を財叢の間に漁り、或は根據なき判斷と機略とによつて利益を投機に求め、進んで經營を能率化し、合理化する方法に考慮と研究とが拂はれてゐなかつた憾がある。今後の商業經營は之を**計畫的**に行ふと共に**科學的基礎**の上に置き、審らかに經營の内容を検討し改善すべき方策が施されなくてはならぬ。今や我國の工業界は事變を契機として一大躍進を示しつゝある。この工業としつかり手を組んで、東亞産業振興の大使命に乗り出す日本商業人の使命を考ふるとき、また中小商業者の放漫にして、即興的なる經營が著しく其能率を減殺して經營に喘ぎづゝある現状を救ふべき必要を認識する時、新に科學主義商業とも謂ふべきものが提唱さるべきを痛感する。そこで商業學校に於ては一層科學的精神の教養をすゝめ、事物を計畫的に取扱ひ、

合理的に見るの習性を養ひ、函數的、共變的、對應的、依存的なるものに深く其理法を究め、法則を發見せんとする感情を培育し、經驗を一般化するの力を養ふことが肝要である。この爲めには理數科系統に屬する學科の一大刷新高揚をはかると共に、教法の活用により既成知識の傳達よりも、知識の生産過程を體驗せしめ、創造力を養ふことに重點が置かるべきである。

崇高の精神も、卓越せる技倆も、單に抱懷藏置してゐるだけでは用をなさない。之を**實踐に移す**性格の養成が必要である。然しながら此實踐は暴虎馮河の猪勇に依るものであつてはならぬ。斷行の前提には熟慮が要る。由來合理的計畫に秀づる人には斷行の勇なく、猛進の元氣ある人に熟慮靜思の計なきもの多きは誠に遺憾とする處で共に功を成す所以でない。今や大陸進出の澎湃たる機運に際し、細心綿密と大膽と敢爲とを兼ね備ふる人物の養成が極めて大切であると思ふ。

商業に力（能力）を與ふる教育たらざるべからず

志と力とは相伴はなくてはならぬ。能力なき念願は、劍道を辨へずして銘刀を帶ぶるに等しく、成果を揚ぐる事が出来ない。産業中最も廣く且深い多くの知識を必要とする商業に於て特に然りとす。中等商業學校に於ては、大企業に在りては其事務員として、中小企業に於ては其經營者とし

て使命を全うすべき中堅人物を養成するのであるから、其任務を達成し、抱懐する信念を實現するに足る能力の啓培が必要である。

一、能力の第一は體力である。國防上よりは勿論のこと新時代の實業界は激務を要求し、殊に大陸に進出すべき産業人は從來程度の體位に満足は出來ない。積極的に數歩、數十歩を踏み出した健康増進の教育と措置が大切である。體育の事は個人としても極めて必要であるが、特に國家の爲國民の優れたる體格育成を重要とするのである。學校では毎日合同體操の外、體育に關する時間を充分に配當し、一定距離の徒歩を勵行し、總運動日を設け、各種の保健的行事を工夫すべきは勿論であるが、體育は德育や知育と分離して存在するものではなく、深く全教育のあらゆる點に滲透徹底し一體として教化されなくてはならぬ。單に體育の時間のみに深い注意を拂ひ一般學科教育の場合には、學習法なり、採光、通風、換氣、姿勢、態度等に無關心なるが如きは全く意味なき事である。

二、時勢の推移は配給を單一商業のみに委ねる事なく、農工業者自身が其經營内に配給を加へ來りつゝある事は、商業學校卒業生の需要が工業方面に増大しつゝある統計の明示する處で、工場管理・安全衛生・産業法規・運搬・藏置・原價計算・會計事務・原料材料の仕入・製品の販賣等の各

部面に工業界が商業教育に求めつゝあるところのものは極めて廣く、又商業經營その者が、工業知識なくしては行はれざるに至つてゐる事贅言するまでもない。之等に對應する教育は商業學校の留意する所ではなくてはならぬ。商業本來の經營を研究すると同時に之を通じて一般經營、工業經營の方向に數歩を進め、卒業後の自力研究への足がかりをつけて置く必要がある。然しながら此事は決して單に一、二の科目を増課することに依つて満足出來るものではない。必要の起るに従ひ、これも加ふべし、彼もなきにまさと新科目を逐次加説し來つては、モザイクの様な百貨店賣場のやうな教科課程が出來上り、生徒をして徒らに奔命に疲れしめ、適従するところに惑はしめる處がある。凡そ或事項の認識が必要とならば、全校全教程とその取扱の上に、訓育の上にも體育の上にもそれが一つの流れとなつて横溢し來らねば意義をなさない。新教科が從來の教科の上に取つてつけた瘤の様に加はるのではない。全科に工業教育的調味が調はらなくてはならぬ。

三、商業が其本來の使命を達成すべく、生産の線に副ひて合法的に經營され、如何にして贅費を節減して効率を高め、低廉なる市價の上に立つて、配給の機能を十全に顯現せんとするかに努むるに當り、自信ある商業經營の推進的基礎をなすものは實に經營原價の計算である。これにより商業

經營は計算的根據を有するに至り、之を合理化して經濟性を大ならしむる事が出来るのである。故に此方面に關する教養には特に力を用ふるの要がある。

四、次は海外發展・大陸進出に關する教養である。海外雄飛の氣力を旺ならしめ、寒熱に耐へ困苦缺乏を凌ぎ得る鞏固なる意志と身體との鍊成をなすと同時に、各學科の内容を刷新し、東洋及南洋の事情を理解し、之が經濟開發に關する知識を有せしむる爲め特別の意を用ひ、特に東亞研究の科目（興亞科）を設け、主として將來活動すべき地方の國民性・經濟事情・外交及政治情態・商業通路・商習慣等を調査せしめ、事情に應じて必要なる外國語を併課することは喫緊の要務と謂はなくてはならぬ。又從來の外國實踐・コレスポンデンス等が動もすれば手續辭句の教授に終始するの觀あるの弊を矯め、之等諸科目を一括し、生命あらしむる「外國貿易科」とする方が一層適切である。學科の名稱は其教科進行の態度に著しき影響を與ふるものであるからである。

五、軍人精神と商人精神とは同じく忠君愛國を以て信條とする。青年の心身を鍛鍊して其資質向上を期する教練教育が商業教育の上に輝かしき光を放つは勿論、其教科内容は直接産業人の教養に資するところが極めて大である。良兵は即良商であり、兵商は一道である。吾等は教練教育一層の

振興をはかるべきである。同時に武道の振作により強き意思を鍊成するの要を痛感する。

第二 教 科

生命ある教科たるべし 商業教育は生命ある人間を日本國民として日本産業人として陶冶することであるから、教科の一部分に偏することなく施すに全人教育を以てしなくてはならぬ。従つて教科は個々無機的のものではなくて、人間陶冶の有機的體系としての組織あるものたるを要する。換言すれば知識の斷片を羅列するものではなく、一定の方針によつて統一されたる精神に材料が相關聯し結び付いて結晶して出來上つた生命ある一つの體系であらねばならぬ。從來の商業學校の學科は其教科内容が多岐且複雑であつた缺陷もあるが、夫れよりもその統一が缺けてゐた點が特に改善を要する様に思ふ。近來學科目の整理・配合・取捨・選擇の要が論議されるが、其配合取捨は單なる便宜上からの分科や寄せ集めの教材群ではなく、意識的な體驗的な主張によつて正しき一定の指導目標の下に有機化され、體系附けられ、之に生命を吹き込まれた活きた教科となるべきである。

生命あるものゝ本質的認識は分析的の考へ方では徹しないのである。故に學識の長養、識見の向

上は單に分科せる學科からのみでは期待することが出来ないわけである。然るに實際生活そのものに於ては各種の陶冶價值が相交つてゐるから、自然教科は實社會の現象を中心として之が觀察・推理・判斷をなすに便利な様に総合的・全體的・合科的に取扱はるべきで、其結果として事實教授や直觀教授の形式がとられ、又合科教授が必然的となつて來るのである。故に本來から言へば教科は濶い血の通つてゐる關聯的の教材を分割することなく、未分化のまゝを全體として取扱ふことが望ましいのであるが、中等教育に於ては小學兒童初學年に對するやうな徹底的合科教授を行ひ得べきものでもなく、又事實研究の進行道程にあつては秩序ある一定範圍にまで分科し、分科の過程を履む觀察の方法を會得せしめ、夫々の角度から觀察認識せしむべきである。然し畢竟するところ分科は事物の真相を精査せんとする手段で、決して分科其者が最終の目的ではない。そこで教材は之を道徳的見地からと、國民經濟的見地からと、經營的見地からと、體育的見地からとの各方面から斷えず考察を加へ、周到な用意の下に皇國の道に一元化しつゝ進行せしむべきである。

學年に伴ふ合科と分科 下級學年に於てはまだ商業本來の姿を知らないものであるから、之に職業の本質、商業の職能を了得せしむる爲め、彼等の日常生活を基礎とし、經濟界を未分化のまゝ綜合科目として課するを可とする。此時期に於ては商事要項も簿記も法律も商業も綜合的の科目として取扱はれ國語、英語等に於ても合科的取扱が有效と思ふ。進んで中學年となるとかなり専門に入つて研究せしむるの要があるので相當の分科を必要とする。然しそれにしても例へば簿記を商業簿記と銀行簿記とに分割並行して課するよりも、商業簿記の特別仕譯帳から現金仕譯法に入り、其形式として所謂銀行簿記を課するといふ一貫せるものゝ方がよいのではあるまいか、化學と商品、商事要項と商算の一部等之に類することは少からずある様に思ふ。更に高學年に進んでは中學年に於て分科によりて修得したる一般的理論に基づき卒業後接觸すべき實際問題につき、再び、しかしながら全く高き見地に立つ特殊具體的の合科研究に進ましむる様組織するを必要とする。實踐、商業經營、經濟事情、産業調査などがそれである。或教科又は教科集團が一學期又は數ヶ月現はれ、其期間が終れば更に他の教科又は教科集團が之に代り、此期間中は教科の種々の方面即ち國民精神徹底、科學精神啓培、經營の研究、技術及情操の陶冶、心身の鍛鍊等の諸教養が、此題材に即應して綜合的に取扱はるゝのも、計畫其宜しきを得れば棄て難き一方法である。

教科目 教育審議會の答申案に依ると商業學校の教科目は國民科、商業に關する教科、理數科、

商業學校の經營に就て

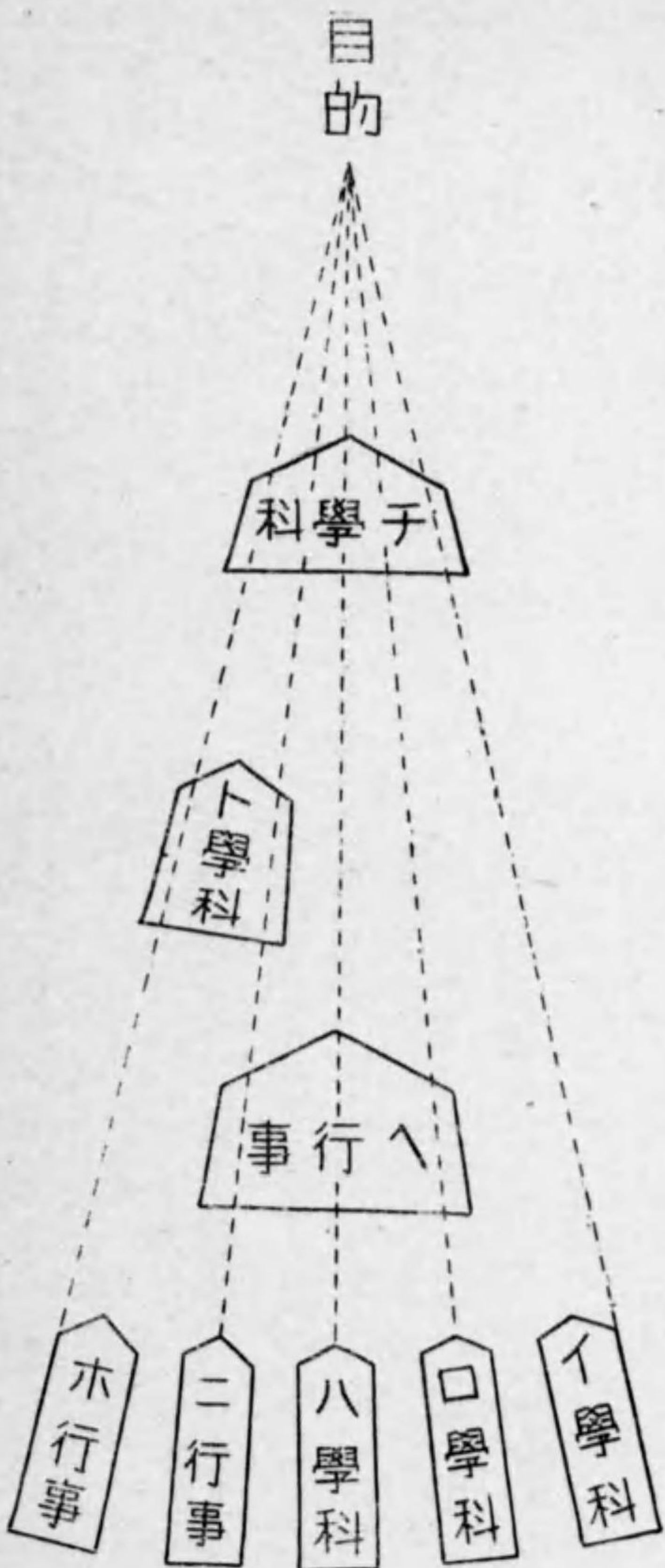
一四

體鍊科、藝能科、外國語科及實踐科の七教科となり、夫々其等に附屬する小教科目を有することゝなつてゐる。これを實際の學校に當て嵌め實施するに當つては、夫々實情に即したる工夫を要するであらうが、差當り「商業に關する教科」は上述の見地よりして其中樞を經營に置くを適當とすると思ふ。即ち如何に商業を經營することによりて、其使命を全くし得るかといふことに中心を置くべきであらう。中小企業に於ては其經營者としては勿論、大規模經營内の中堅事務員として上級者の意圖を了得して、適切なる仕事を完遂する爲めにも經營の見地よりする研究が必要である。又小科目は夫々所屬する大教科の使命に方向づけられてあるべきは勿論であるが、必要に應じ其統合そのものを目的とする特別の科目の設定も必要である。之を表示すれば

科	目	所屬小分科	分科の統一に關する科目
皇	主として國民精神の徹底に關する教科	國民科	修身
		1. 修身 2. 公民 3. 國語・漢文 4. 歴史・商業史 5. 地理・商業地理 6. 日本産業論、興亞科	日本産業論
		1. 商業經營、商事要項、商業文、 2. 外國貿易、會計、原價計算 3. 簿記、法規	商業經營
		1. 算術、代數、幾何、商業數學	商業數學
		1. 博物 2. 物理 3. 化學 4. 商品 5. 工業	工業
		1. 教體操、遊戯、競技 2. 衛生 3. 武術	教體操
		1. 唱歌 2. 圖書、商業美術 3. 珠算 4. 珠算 5. 珠算 6. タイプライティング 7. 速記	藝能科
		1. 外國語科	外國語科
		1. 實踐調查	實踐

國の道の修練					
主として商業經營に關する教科	主として科學精神の涵養に關する教科	主として心身鍛鍊に關する教科	主として技能及情操陶冶に關する教科	主として外國語の習得に關する教科	主として自主綜合に關する教科
經營科	理科	體鍊科	藝能科	外國語科	實踐科
1. 商業經營、商事要項、商業文、 2. 外國貿易、會計、原價計算 3. 簿記、法規	1. 算術、代數、幾何、商業數學	1. 教體操、遊戯、競技 2. 衛生 3. 武術	1. 唱歌 2. 圖書、商業美術 3. 珠算 4. 珠算 5. 珠算 6. タイプライティング 7. 速記	外國語科	實踐調查
商業經營	商業數學	教體操	藝能科	外國語科	實踐
	修身	實踐	鍛鍊行事		

各教科や行事は同一の目的に向つてゐる故に、各學科、各行事は平行しないで左表の如く同一の目的の一點に向つて集中してゐる。「イ學科」、「ロ學科」、「ハ學科」、「ニ行事」いづれも別個の學科又は行事であり、「ヘ行事」、「ト學科」、「チ學科」は夫々數科目乃至全學科に互つてゐるが、之亦同じ目的への参加に外ならない。



所謂普通科と商業科

商業學校の學科目を普通科と高等科とに大別することが從來一般に行はれてゐるが、此兩者は決して性質上の區別ではなくて、單に教科内容の廣狹又は深淺厚薄の違ひが存するのみである。假に普通科なるものありとするも、此所謂普通科は商業學校の普通科であつて、學校の普通科とは其趣を異にする。そは決して主として直接實業に役立つ教材をとるべきだと謂ふのでもなく、又中學校よりも粗略に取扱ふべきだといふのでもない。商業學校の生徒は農學校の如く自然に親しむ機會が少く、多くは郊外生活者でない上に眼前物質利害の刺戟の多い世界に起居するので、一層清雅崇高の情操陶冶、宗教的感情の啓培を必要とし、所謂腹の出來た人を作り、算盤を横たへて詩を賦す底の風懷を養ふことが望ましい。若し夫れ商業學校たるの故を以て一般文化の教養を輕んじ、單なる技術知識の末に趨るが如きは吾等の斷じてとらざるところである。又實業家過去の實狀に鑑み女子に於ける良妻賢母と同様に家庭及び子女の教養に關し良夫賢父たるべき教化の必要が痛感される。しかしながらどこまでも商業學校の國語科、商業學校の英語科(商業的國語や商業的英語といふ意味ではない)乃至商業學校の博物といふ事を忘れてはならない。産業人の教養としての國語乃至數學である。單なる人文主義の上に立つのではなく、商業といふ一定の方向に向ふ青年

を對照として、その高き人格教養としての教科である事が肝要である。教科書は中學校と同一であつても又簡單なものでもよい。簡單は粗略とは全く意味が違ふ。教師の教科取扱の態度、心構へで如何様にもなるものである。最も悪い事は往々聞くところの「自分は商業學校の事は素人でわからない、只國語の……數學の……教員だから」といふ事である。商業其者の技術的方面は兎も角として商業學校の教員は一人残らず商業教育者である事の自信と主張がなくてはならぬ。之あることに依つて普通科が商業學校の普通科として活きるのである。又所謂商業科は之を通じて人格の鍊成に努むべく個々の教材にこれが滲徹してゐなくてはならぬ。吾等は一元的に知徳體相調和せる直路を邁進する「これは徳性の涵養」、「これは知識の鍊磨」といふ風な千鳥足の教育で人物が出来るものではない。習字、珠算の如き藝能科に於ても深く此點に留意し、前者は特に幽雅、溫良、雄渾の品性を養ひ、後者は特に正確、機敏、沈着の性格を育てることに力むべきは論を俟たない。

第三 商業道場として

商業學校は日本商業青年鍊成の道場である。産業人たる國民としての全人的陶冶を目的とする教

域で、單なる商業知識傳達の講演場ではない。知徳體三方面に互り全人一如の教育が適切なる教科の分割統合、熱意ある學習の促進、體育の指導、行事の計畫遂行により具體化されてゆかなくてはならぬ。従つて先づ第一に樞要な問題は教法であつて設備は此教法を實行する環境として工夫改善さるべきである。

生徒の主動 教科目は之を消化する時に知識は溶け込んで吾者となる。我等は野菜や肉類を體內に貯藏せんが爲めに食を攝るのではない。表象の記憶的固定は眞の知識とは謂へない。眞の知力は造り出す道程の間に鍊成される心力に在るのだから生徒をして自ら行ふの力を有せしむる事が必要である。由來自ら好學の志を起さしめなくては之に課する學業に對して彼等は最も容易と思ふ線に沿ふて行ふから、自然難問題の回避となり、記憶本位となり、虎の巻の悪用となり、試験勉強となり甚しきはカンニングに血路を求むることとなる。教師は取締に終始して奔命に疲れ、學業は桎梏となり、學園は教師對生徒の利害相反する冷やかな關所となる。従つて卒業後は急に其勉學を廢し、或は享樂に走り、或は仕事を嫌忌し、苦勞とすること前日の學習に於けると同じく、勞苦の回避となり、利己主義となり、結局は却つて求むるところの凡てを得る能はざるに至るのである。之に反し

學校に於ける課業に對し自ら進んで途を開く態度を育成せば、彼等は内心の興味を以て之に臨むが故に、登山愛好者は却てケーブルカーに依るを好まざる如く、必ずしも容易と考へらるゝ線に沿ふ事なく、課題の欲求となり、實驗實習に依る理論の把握を楽しみ、教師は共同研學の先達となり、學業は歡喜となり、學園は師弟の苦樂を共にする温き家庭となり、修練を共にする道場となるべく、卒業後も其研究態度を繼續發展し、一生を通じて仕事を樂しむ輝きある生活に進ましむる事が出来るのである。孔子は「之を如何せん之を如何せん」と曰はざるものは吾之を如何ともするなし」といひ、佛者の間に成道よりも却て發心を重要視する所以である。體育に於けるも亦同様で自律的體育でなくしては永續しないと同時に、自發作業は其勞苦を精神的に歡喜に轉せしめ、性格を明朗快活にし、健康の増進に資することが多いと信ずる。

故に教授は説明注入による生徒受動の教法を改めて、能動的、主動的、創造的な力の教育を施し、自ら進んで目的を立て、自らの力で其目的を實現するところの方途を彼等の行動に求めなくてはならぬ。然しながらこの事は決して教師の教授勞力の減縮、指導の放任を意味するものではなく、又所謂「自治」に任す意味でもない。却て強い教權の發動を必要とするのである。即ち教師のあらめる

工夫と努力とが如何にして生徒を主動せしめ、其能力を開發して教科内容に適合せしめ、既習の知識を基として新しき生産構成を行ひ、逐次高次の教域に發展向上せしむべきかに拂はるゝ事を要求する。環境の醸成と指導の周到とが學習の欲求を喚起し、且強い迫力と強制と監視と激勵とが生徒をして主動的ならざるを得ない様に熱烈な力を以て之に臨まなくてはならぬ。又生徒の主動を高調するの故を以て、教師よりする知識の傳達教示を排斥し去るのではない。全體が自發主動的に育成されたる空氣内に行はるゝ傳達講述は、深く耕された田園に於ける播種の如く、極めて有効で、むしろ受動的能動、或は能動的受動とも稱すべきものであるからである。

郷土が資料となる 生徒の主動を中心とする時は、生徒は故らに研究の資料を遠き不便の地に求むるよりも、最も手近な眼前のものをその對照とするのが自然である。故に立脚地たる郷土が研究資料として俎上に上り來るであらう。所謂實業調査が主として郷土近接のものに取材するのは之が爲めである。しかし目的は極めて一部分の實業情態を知らしめんとするのではなく、得せしめんとする所はそれを通じてそれから昇華されたる理論の把握と研究態度の啓發である。

具體的教育たるべし かくの如く教授は抽象的觀念的のものを避けて成るべく具體的、實際的

に行はなくてはならぬので、自ら實際教材が尙ばれることゝなる。眞理は實踐の上に宿る。抽象的の教材は理論に缺くる所があり得るが、實際は理論に缺くるあるを許さぬからである。故に實際を教材とするもそれは單なる「報告」に終始してはならない。商業學校教育が徒弟教育と異るところは個々實際の具體的事實を理論化し普通化するところに在る。直觀的に得たところの事物の原質を捉へてその根據を吟味討論することが必要である。かくて學校に於て傳達する既成知識の分量は尙之を減じてもよいが、握らしむる理論は今後一層豊富多量ならしめ、大に事物の判斷力を養はねばならぬ。その爲めには教材の精選が極めて必要である。

行動の教育たるべし 全人の教育は力の教育である。耳から耳への知識授受でなく、各生徒の體験に訴ふることが肝要である。従つて授業は自ら勞作化され行とならなくてはならぬ。信念も知識も技術も眞に自己の血肉となるにはこの行の徳を積み、全我的な自己活動により自ら身體を勞し苦難を味ひ、修鍊を重ね、十分反省しつゝ、忍苦鍛鍊の裡に悅樂を味得する勤勞々作實踐によつて開發育成すべきものである。商業學校を單なる書籍學校たらしむることなく、勤勞そのものゝ中に自己を見出し、仕事三昧の佳境に味到せしむる道場たらしめねばならぬ。力むべきは實踐による實踐力の

養成であつて、その故にこそ學校は圖書館と異なるのである。

實踐科 主動教育の主宰として商業學校教科連山の上に聳えてゐるものは實踐科である。故に此科目の運營指導に意を用ひ創造教育の實績をあぐるに強き推進力たらしめねばならぬ。實踐科の目ざすところは事務手續を覚えさすのでもなく、信書や書類の取扱に慣熟せしむるのでもない。實踐市場に於ける自己の仕事の完成を目ざすところの精神的にして、身體的な心身一如の行により諸能力を發展せしめ能動的の商業人を作り出すことにある。故に自ら計畫を立てさせ、その實現の方法を選び且完全に之を遂行し、逐次其の程度を高めて行く態度を養ふ様に工夫せねばならぬ。同時同業法を斥けて模擬實踐法の採用せらるべき理由はこゝに在る。

出席日數 教授は教科内容の知得だけでは完成しない。其教授をなしつある經過、寮圍氣の中に不拔の性格が養はれる。薰陶といふ言葉は之から生れる。浸潤するのである。薰染するのである。師の訓化と鈍鈍と鍛鍊と勤勞とを経てこそ人格が鍊成されるのである。此意味から出席日數が所謂學科成績の外にもを言ふのである。

鍛鍊の必要 實業教育の重要な着意の一つは強い意思の鍛成である。努力を経ずして容易に會得

さるゝことのみを目して教授法の巧妙となし、學科の修得に眞剣な鍛鍊的方法を迂路と見るのは大きな誤である。斯くの如くする時は頭腦の働は自然に退化し、而かも退化は更に一層の退化の原因となり、自力を以てしては何事をもなし能はざるに至り、能力の萎靡を招來するものであるから、身體・意思・知識のあらゆる方面に互り鍛鍊する事が必要である。

單純化 知識を鍛鍊する爲めには之を基礎的本質的なものに就いて行はねばならぬ。而して基本的なものは單純であるから、知識鍛鍊の爲めには徒らに客觀的教科程度の高きを貪ることなく、内容を單純化しなくてはならぬ。單純化とは單純なことを教へるのではなく、複雑多量の實際教材を扱ひつゝそれを精搗して基本的なものに單純化して、吸収内化せしめ人格化して發展性を帶ぶる應用自在の源泉をわがものとせしめんとするものである。

劃一を排し特長を伸ばしむ 創造精神の昂揚は個性の伸張にまたねばならぬ。生徒個々をして各自の長ずる處に従ひ、力量に應じて研究を進め長所を進暢せしむるの途を講ずべきである。生徒の個性には差等が甚しく、同一年齡に於ても身體的狀態以上に批判力、分析力、理解力、應用力が異つてゐるから、同じものを與へたからとて同じものが出來るわけではない。從來學校が劃一的の教授を

行つて劃一的の人物を造らんとしてゐたところに無理があり、折角の開拓精神の萌芽を剪去し、失望と自棄とに陥らしめた例は少くない。公平とは適應せる取扱の差を以て全生徒に均等に臨むことであり、千紫萬紅の花を咲かすために天光遍照し雨露均霑するが如くでなくてはならぬ。即ち教授は個別的、分團的であつて、しかも課題、質問等の機會は平等又は適當の較差を持ちつゝ均齊全般に與へらるべきものである。かくてこそ夫々其長所を伸展する事が出來るのである。興亞の大事業完遂の爲には國民が各々其特長を遺憾なく發揮しなくてはならぬ事言ふ迄もない。卒業後生徒の從事する仕事は千差萬別であり、各個人の長所と夫々顯著に個性を種類附けてゐる。而かも之等に常に同一課程の教科内容を以て臨むのは決して適切とは謂はれない。上級學年に於ては數種の異つた教科内容を有する學班に分ち、更に選擇研究の部類に應じ指導教員を配置して其長所を伸ばしむるの方策が研究せらるべきである。

各科目教科の使命に即する教授たるべし 教授訓練はあらゆる點に於て、いかなる細部の一點を押すも商業教育精神の躍動が感じられ、教材の一つ一つが鏘然として商業教育精神に鳴りひびき、日本國民の血管に融け込むものでなくてはならぬ。各學科はかくの如く一切の學科が共通にもつて

ある點に力を入れる事が肝要であると同時に、又其教科の有つ獨特固有の使命・價值・目的の深い認識の上に立つ事が肝要であり、一教授單元に於ては其單元の目的を明確に把握し・卓越せる見識の下に教科の使命に即する授業が行はれなくてはならぬ。又教科書の順序は概ね論理的に整然と記載されてゐるのであるが、之を教授するに當つて其論理的順序が教授上必ずしも有効適切なる順序であるとは限らない。生徒の生活に立脚し、其既習の認識を捉へて之を擴充發展せしめて教陣を進め行くには、別に心理的の順序が考へられなくてはならぬ。教師は此點に於て教電通流の變壓器の作用をなすのである。日々の教案は論理的なる教科書を心理的に變壓して組み換へをなし、其抽象的なるものを具體的に、具體的なるものを更に體驗的に指導鍛鍊せしめて教科内容を味得せしめる事が肝要である。

環境の整備 居は氣を移す。環境の如何は努力の成果の上に著しき影響を有つものであるから、教育目的達成の一路に向ふ雰圍氣を全校に漲溢せしめなくてはならぬ。これが爲めにとるべき具體的の方策は二三にして足りない。日進日新、努めて息まざる職員と其指導下の生徒との協力によつて學校内の環境を合目的に整備せしむる必要がある。

第一に全活動の樞軸たる皇國の道に徹せしむるため、常住不斷、仰いで以て勤行修道の歸趨に反省せしむべく、校庭に國旗掲揚臺、控所其他の要所に國民精神昂揚に資すべき資料を掲げ、又揭示、陳列、扁額、各室の裝備等により其薰染から言外の商業教育を通徹せしめ、産業による報國、職業を通じての使命達成を生徒の第二の天性たらしめなくてはならぬ。

又生徒の自發研究を奨励するに當つては、それに相當する環境を準備しなくては豫期せざる失敗に陥ることなきを保し難い。例へば充分なる圖書、其他參考資料等を用意せずして、生徒に自由研究をなさしめんか、彼等の努力は徒消せられ失望に終るであらう。故に學校の設備は特に留意して生徒の實驗實習研究調査に必要な施設を準備することが肝要である。

教室其他 教室は生徒の研究場であり、作業場である。依て其設備も單なる講義場ではなく實驗實習をなし、時には數人協同作業するにも適するやうに机の形態を考慮し、室の周圍に參考品、實驗資料等を陳列鑑察せしむる設備を設くる等、生徒の活動に適する様に設計裝備せらるべきである。又授業後は夫々の普通教室を以て各種の特色ある研究室に充てる事も一法と思ふ。

特別教室は夫々の目的に應じ出來得る限り潤澤なるを良しとするけれど、事情之を許さぬ場合が

少くない。講堂、綜合調査室（實踐、各種研究調査、就職指導、圖書閱覽等）、理化及商品工業實驗室、簿記、作業及商業美術、圖書、習字、タイプライター、體育衛生等の諸室、武道場、屋内體操場、食堂等は缺くべからざるもので學敷の修養室は別趣の効果がある。

産業上の調査室には圖書、新聞、雜誌、報告書類を潤澤に備へ付け、研究机、戸棚、整理箱、閱覽臺、發表用揭示額等を設けて研究に資すべく、商品室の如きも單に各種の出來上り商品の見本を羅列するに止まる平面的なものであつてはならぬ。雑多の商品を蒐集、陳列して或は栓の開かない油の壺詰や罐詰の罐や、甚しきは菓子箱を列べて其整頓の綺麗であり、其數の多いのを誇ることは意味のないばかりでなく、それでは學校が如何に努力して蒐集しても畢竟小さな百貨店に劣るし、又商工獎勵館か商店街かを一巡した方が餘程氣が利いてゐる。商業學校の商品室はどこまでも商業教育の上に立脚し、一定の主張を以て其陳列品の種類を系統化し、理論化さるゝ様に工夫なくてはならぬ。又「陳列品に手を觸るべからず」式の陳列では到底其商品の認識に徹することは出來ないから、よく手に取つて扱へるやうにし、出來るだけ實驗を生徒に向つて開放すべきである。

教授上の諸材料は常に新鮮にして活力あるものたるを要し、之を購入するよりも職員生徒の蒐集

制作による方がより有効である。

賣店（學用品を供給する消費組合）は其記帳、計算仕入販賣、裝飾、賣場及窓飾の設計等經營を立案實施せしめて之を批判する事が肝要である。パザーや行商は多くの場合あまり効果が無い。個別的の指導が其宜しきを得ない限り之を理論化せしむる事が困難だからである。

考查に就て 考查は生徒實力の檢定と教師自身の反省との二目的を有するが、何れにしても生徒記憶量の測定とならぬやう、常に生徒生産力の測定でなくてはならぬ。養蠶に譬ふれば蠶が腹の中に保有する桑の分量を測定することは何等意味をなさない事で、吐く絲の量を測定すべきである。此事は極めて重要で、若し考查問題が單なる記憶を檢定するが如き實情の下に在るならば、生徒に對し平素如何に自主活動を要求し發展的學習を求むるも、生徒として勢ひ記憶主義に陥らしめ終るからである。教授の態度と、家庭の學習と、考查とが一貫した主張に立つてゐなくては効果は擧げなす。

行事の豫定 年中行事は正課外ではなくて日による、合科である。故に無方針な即興的なものでなく、之を組織化して教育體系に織り込み、一定の方針と計畫の下に着々豫定實行して行かねばなら

ぬ。夏季及冬季の休暇に於けるも亦然りて、集團又は個々に各種の作業を課し鍛鍊的行事をなす等充分の工夫を要する。

時局の認識及銃後奉仕の實踐 に就ては特に意を用ひ、興亞奉公日の行事は固より講話、見學、貯金、廢品蒐集、國防獻金、犒軍、慰問文、慰問品の發送、出征軍人、遺家族、病院の慰問、其家業の手傳、戦病死者敬弔等に力を致すことは特に重要である。

集團勤勞並に農耕的戸外作業に就て 鍛鍊の實をあげ心身一體の訓練を行ひ、金剛の精神と鐵石の體軀とを鍊成する爲めには勤勞作業が必要である。之によつて學識の深化も情操の醇化も期することが出來、之を集團的に行ふ事に依つて一層國民的教養の實があがるのである。殊に商業學校の生徒は校内の作業や生徒の環境が都市生活に偏してゐるので、之に農耕的戸外作業を課し、澄明なる大氣の下、豊富なる日光に浴し、大自然の懷のうちに水を掬し、土に接して鍬を振り、重きを荷ひ、田園を渡る微風に流汗を拭ふところの筋肉勞働により、具さに人間勤勞の眞味を體得せしめる事は極めて必要有意義である。若干面積の田園を郊外に有し、計畫的に之が農耕に従事せしむる農場と其經營に就き工夫が要る。田園は之を學級別に擔任せしめ、附近に寮舎、學舎、物置、炊事場を設け

交代で學科の教授、調査、研究をなし得る様にし、在學中一定期間合宿せしめ師弟一如となつて修養訓練を行ひ、塾風教育の利益を併せ收め得る様晴耕雨讀的の計畫が望ましい。かくて生徒は自然に接することによつて審美觀念も宗教的信念も體驗として養はるべく、師弟共働、人格接觸によつて受くる効果も少くない。而かも勤勞によつて得た結果を反省して、その態度手段を批判するに直接的であり、又生産的であるから、國家奉仕の實踐力の陶冶として効果が偉大である。又作業の性質により忍耐力も創造力も協同の精神も養ふことが出來、農業生産に關する理解を得しむる効果がある。

農耕作業の目的は個々農産物の栽培技術の修得でなく、これによる勤勞的性格陶冶に存するものであるから指導教養も其心が肝要である。單なる強制に陥ることなく自發創作の心に訴へ、作業中及前後の行事により心構を醇化せしめ、敬虔の態度により黙々として勤勞に従事せしめ、就業、休憩、夫々節度を正しくし、食事の際は特に重要な機會として取扱はれなくてはならぬ。作業終了後の整頓跡始末は兎角等閑に流れ易いから留意して作業有終の美を濟すことに力むべきである。

見學に就て 教室を街頭に擴張して會社、工場、其他商業機關等の見學をなさしむる事は單に見學事項の知識を得さすのみでなく、之によりて産業界全般の趨勢を會得せしめ世局に對する覺悟を

新にするもので、教授の効率をあぐる上に極めて必要有益の事である。然し之には充分の注意をして効果を十全ならしむるに努めなくてはならぬ。即ち(1)生徒の有する知能の程度に應じて計畫的に其種類場所を選定し、(2)實施に先だち教師先づ之を視察して見學の順序方法を定め、(3)生徒に對し視察の目的、着眼點を明かにし、(4)見學前、豫備知識を與へ見學後に整理を行ふべく、又従業員の態度、心構等につき道德的視察と之に關する教育とを閑却すべきでない。

課題に就て 商業學校に於ては絶えず一定の題を課し、又は自ら自由研究題を選択せしめ、之によりて研究の興味を喚起し、知的建設創造の歡喜を味得せしめ、生徒を鼓舞して自奮自立の習慣を養成する事が肝要である。作品に對しては夫々批判を與へ優秀なものは之を表彰し、研究物は整理して一般の閱覽に供し、或ものは之を講演又は印刷によりて發表せしめ、以て同學の刺戟たらしむるを可とする。

注意すべきは調査物の分量、裝釘等に眩惑さるゝことなく、研究の態度即ち、(1)調査題目選定の理由(自由選題の場合)、(2)調査に先だちて樹てた計畫、(3)準備、(4)調査の方法、(5)得た材料に對する觀察、(6)跡始末等の當否、適否等を批判の對照としなくてはならぬ。徒に多くの事實や統計を蒐

集するのみで其分析、統合、比率計算及之に對する觀察を試むることなき調査、又は一定の理論より出發して之を演繹、確認、布衍、證明せんとしたる形跡なき調査は、たとひ其調査物が外觀上如何に立派に見えてもさまで價值あるものではない。調査した事實や數字をあらゆる方法より検討し、其しかある原因、理由を探究考察し、事實を根柢に徹して深く會得し習得したもの、具體的な適用乃至實證を發見し、又は事實の間、數字の間に如何なる相關の關係ありやをたしかめ、其間の函數的法則を發見し、又は發見せんとする努力が拂はれてゐなくては殆んど無價值である。

學級經營 學校全體の經營案に基き各學級擔任教員は學級經營を行ふべきである。生徒に對し其家庭に於ける學習法の指導を怠らなると同時に保健、鍛鍊の兩方面に互り創意を怠らず、運動の選擇實行、起居動作、娛樂等を指導し、健康度の評定、體育手牒の活用、體育章による獎勵、保健相談による早期治療の警告、視力の保存、齒牙の保全に關する注意等、衛生係職員と緊密なる聯絡の下に實施すべきは論のない所であるが、學級經營は單に教師のみの仕事に止めず、級長以下全級生徒の適當なる参加によつて一層其實效を期すべきである。學級が一つの家庭として有機的に經營される、事は學科の有機的教授と相俟つて大切なことと思ふ。標本室、實驗室等も夫々適當な經營方針

の下に其整頓、排列、手入等に就き能率的、計畫的な方途によつて清潔、整頓が保たれ運営が滑らかに行はれなくてはならぬ。此事自身が大きな具體的教育であるからである。

就職指導 職業指導の目標は深く個性を鑑察し、國家の必要とする事業に對し適材を適所に送ることである。區々たる一身一己の利害を中心とした考へ方に立つて大局をあやまる事を期せしめねばならぬ。故に之が基礎となるものは日本産業大勢の深き認識、事業界に對する透徹せる見通し、個々事業會社に關する精密なる觀察、本人各個の長所、短所の自覺等である。此點に確固たる信念を持ち得る様研究調査の設備施設が必要である。就職指導の調査室に於ける資料の蒐集、展觀、指導等により適當に運営さるゝ事が望ましい。

卒業生の指導 青年が一たび學窓を出で、實社會に入るや、其皮相の觀、動もすれば學校教育と實社會との様相の異なるに驚き、忽ち崇高の理想を棄て、目前の利慾に走り、或は誘惑に陥り、或は教育内容に疑惑を抱く等、幾多警戒を要する點がある。故に學校は卒業生に對し尙相當期間指導の手を放たず所謂アフター・ケアの施設あるを有効とする。此施設は單に自校卒業生に對するのみでなく、事柄によつては進で廣く學校所在地に存在せる他地方商業學校卒業生の研究に開放し、

又當業實務者の研究機會たるの實をも擧ぐべきである。

具體的の實施案としては、(1)卒業直後の激勵的書翰、卒業後約一年經過の際に反省を促す意味の文書發送、(2)就職先に對する情況照會による處理、(3)卒業後約三ケ年間時々パンフレット又はリーフレットによる指導、(4)同窓會誌、校友會誌等の記事利用、(5)少くも毎年一回學校所在地若くは卒業生の比較的多く在住せる土地に於て座談會的指導會の開催、(6)校内に卒業生研究日の設定、(7)學校長及職員の勤務先訪問等はあまり困難なく行はれ得る。此事業は同窓會との緊密な連絡により其協力の下に實行すべきは言を俟たぬ。舊い卒業生には學校と同様指導者の立場に立つて後進の指導に當つて貰ひ其効果を發揚すべきである。

實社會の指導への進出 商業學校の行ふ教育操作の對照は先づ生徒であり、次で近い年次の卒業生であり、次で一般商業者である。本末と先後とをあやまらない事は肝要であるが、小さく學校なる堅殻に閉居して實社會の指導を忘れてはならない。特に學校所在地附近の中小商工業者の爲めには有力適切なる指導をなすことが學校の責務をつくす所以であると同時に、學校自體が實際化し自校の教育に暗示と反省の資料とを受くることが少くない。特に中小商業者に對し商業人の信念を與

へ、之に科學的經營の方策を授けて共存共榮の實をあげしめ、眞に國運の發展に寄與貢獻せしむる事は商業教育に従事せる者の責任と謂はなくてはなるまい。具體的方法として商店の訪問調査即ち所謂商店診断、小講習會、座談會、印刷物の配布等平凡なことをはじめ、考へれば方法はいくらもあらう。勸學院の雀をして蒙求を轉らしめなくてはならぬ。蘭香の在る處、四周其芳香に薰染する。商業學校所在地附近の小商店の經營が他と何等の異色なきは、或意味に於て其校教育の不徹底を意味するものとも言へやう。

第四 職員

從來商業學校の有つてゐた大きな患ひの一つは、教員中所謂「商業科」の擔任者は商業知識には自信があるが「教育」の方面には素人だと自ら諦らめ、所謂「普通科」の教員は教育には相當の自信を有するも商業には素人だと自から退き、結局商業教育なるものには確固たる定見なく、半熟的態度に終始し、我こそ商業教育の責任者なりと自認し、其貴き使命に邁進せんとする人が比較的少かつた憾がある。之が爲に商業科教授は動もすれば知識の傳達に偏して徳性の陶冶を輕んじ、普通

科は徒らに中學校教育の後塵を拜して産業人の力を養ふ事を忘れたるやの弊に陥つたのではあるまいか。商業學校の教員は商業教育者たるの信念に立ち、商業教育の針路に斷えざる研究が大切と思ふ。商業學校の針路は時代の産業の嚮ふところを洞察し、國策に隨ひ、教育目的の實をあぐるに力むべきであつて、現代産業の情勢と無關係に商業學校の針路があり得る道理は無い。故に職員は團體又は個人で學界並に實業界との聯絡を圖つて、學者實際家の言説にきき、産業界の實情を調査認識し、深く思ひを生徒の前途に致しつゝ、商業學校の針路を見通して進まなくてはならぬ。茲に注意すべきは商業學校卒業生に對する個々の商社の要求に眩惑しない用意が必要なことである。個々の商社は夫々特殊の事情と希望とがあるからである。これ等を包含し且之に囚はるゝことなく、現在及將來の産業界の求むる人物を養成する事が肝要である。此事は決して學校長や一部教員のみに必要なのではなく、苟も商業教育に従事する全職員に必要な事である。かくて常に、(1)各自専門學科の研鑽を怠らず、其學科が商業教育全體の裡に在つてどんな役割をなしてゐるかを究め、(2)教科内容を適切にし、(3)教授方法を工夫し、(4)指導上諸設備の利用を考へ、(5)效果の測定を怠らず、青年の心理に即應した力ある教育を計畫實行すると同時に、(6)教員間の趣味向上を圖り、(7)健康の増進

に力めねばならぬ。職員の校内に於ける研究設備就中圖書の充實、視察旅行特に大陸視察の必要なのは云ふ迄もないが、大都會の學校に在つては、職員交代で「日歸り市内出張」を屢々行ふことにより斷えず新鮮な産業空氣を校内に導入することが出来る。

第五 結 論

商業學校の教育は有爲の日本商業人育成を目的とする。故に其根柢基礎となるものは實に日本精神の徹底であり、目的歸趨となるところは日本精神の顯揚實現である。日本精神は全生活特に學校教育の全般を通じて涵養されなくてはならぬし、日本精神の顯現は商業人に在りては商業なる職分を通じて具體化するものであるから、商業學校に於ける教育は商業人の國家的使命を自覺せしめ、此使命を達成するに充分なる心身知一如の能力を啓培し、國士的意氣を強健なる體軀に盛り、我國産業の進展に貢獻するに十分なる知能を有する人物を鍊成するを要する。かくて其使命達成の結果として個人の福と祿と壽とが齎さるゝことまた言を贅するの要はない。

由來商業學校の使命は第一に商業經營に其正しき方向を與ふることである。従つて方向を與へざ

る個々の知識群の提供は其價值が極めて低いものと謂はなくてはならぬ。既に同一の目的に向つた正しき方向を與へんとする以上、分派せる各教科も各行事も常に正しく同じ方向に向つてゐるのは言ふを俟たぬ。

又此目的は單なる講義や説示のみで達成せられるものでなく、或は強制或は指導觸發によりて實現する生徒の主動的にして、積極的なる行動體驗に訴へ、而かも之を修練する事に依つて始めて達成せられるものであるから、學校は須らく全我活動の道場でなくてはならぬ。商業學校經營、細言すれば商業學校に於ける教授訓練養護の方策は、實に知徳體一如の實業人々格を鍊成すべきこの道場の目的を達成し得る様運營せらるべきである。

思ふに百千の論議はかゝつて一の實行に在る。百千の實行はかゝつて一に職員の努力に因る。百千の努力基因するところは職員の熱意に本づく。しかも其熱意は國體に徹せる深き愛國の信念より迸出するものでなくてはならぬ。

職員にして行ふところの功利的、打算的にして生徒に純眞なる發奮を求めんとせば望んで得べからざるは當然である。生徒に自發主動を求めんとせば須らく教師先づ自發主動たらざるべからずで

ある。教師自身に内發する興味なくして、ひとり生徒に之を求めんとせば天下かくの如き至難の事業は無いと同時に、教師にして眞に好學精進の實を擧ぐれば、生徒は欣然として之に従ひ來るものである。故に吾等は率先範を子弟に垂れ、常に互勵修養、廣く實社會の眞に求むるところに聽き、識者の説くところを読み、深く之を内省批判して其教泉を豊かにし、大勢を洞察して嚮ふところを定め、行ふところを律しなくてはならぬと信ずる。(終)

料資育教業實・刊既

- 1 事變と支那法幣……………大阪高等工業學校 教授 木村増太郎著
 - 2 滿洲の資源と産業…………… 粕谷益雄著
 - 3 農業學校の塾風教育…………… 長野縣上伊那農業學校編
 - 4 蒙疆の資源と經濟…………… 大島 豊著
 - 5 統制經濟下に於ける中小商業問題……………商工省商業組合 委員長 安田元七著
 - 6 合成ゴムの話……………山口高商教授 田中稻穂著
 - 7 代用品工業の現在及將來……………商工大臣官房 指導課長 白井義二著
- 代用品の意義・種類・内容・代用品工業對策・代用品工業の見透し

259
143

料資育教業實・刊既

8 工業學校實驗設備の計畫と運用

大阪高等工業學校 教授 奥谷久彦著

京都市立第一工業學校電氣科に於ける筆者の十數年間の教育経験を述べたもので、一、直觀教授の章に於ては學校の一室を科學博物館的に陳列したことに依り大いに能率を上げ、訓練にも豫想外の効果を現したること。二、情操教育に於ては「科學界偉人の傳記の研究」「音樂教育」の必要を力説、音樂の取入れ方に就いてはレコード教育が捷徑なることを語り、三、生徒の特別指導では電氣ポケットブックの利用法、管理制度、文獻カード等異色ある方法を例示してゐる。

規格判B列五二頁 定價二〇錢 一三錢

昭和十五年八月五日印刷
昭和十五年八月十日發行

實業教育資料9 價 二〇錢
商業學校の經營に就て

不許
複製

編輯兼 發行人 倉橋藤治 郎
常務理事 倉橋藤治 郎
東京市牛込區原町一丁目六八

印刷者 吉田了太
東京市王子區神谷町一丁目四八二

印刷所 東京印刷株式會社
東京市王子區神谷町一丁目四八二

本部 東京市麴町區霞ヶ關三丁目四番地ノ一文部省内
東京市麴町區丸ノ内三ノ六仲二號館内
發行所 財團法人實業教育振興中央會
電話丸ノ内五八六〇番

595
146

終